



2019 年度 ANAグループ航空輸送事業計画を策定

- ～ 国際線ネットワーク拡大により成長を加速していきます ～
- ～ 最新鋭機材の導入によりお客様の快適性を向上させます ～
- ～ 大型貨物専用機の導入によりアジア＝北米間の需要を取り込みます ～

ANAグループは、2019 年度の航空輸送事業計画を策定いたしました。

これまでグローバルに拡大する航空需要を背景に、国際線を中心に路線ネットワークの充実を図ってきました。2019 年度においても、2018-2022 年度 ANA グループ中期経営戦略に基づき、成田＝パース(オーストラリア西部)や成田＝チェンナイ(インド南部)など未就航エリアへの新規路線開設を積極的に進めていきます。羽田・成田の両空港それぞれの特性を活かした『首都圏デュアルハブネットワーク』をさらに強化していきます。

国内線においては、引き続き、需要動向や競争環境に応じた路線便数の最適化と投入機種 of 柔軟な調整を推進しながら、国内線ネットワークの充実を図ります。

貨物便においては、中長期的に拡大が見込まれるアジア＝北米間の貨物需要を獲得するため大型フレイター・ボーイング 777F 型機を新たに導入し、旅客便ネットワークとフレイターの相乗効果により、伸びゆく需要を取り込んでいきます。

さらに、競争力の高いプロダクトを備えた最新鋭機材を順次導入しお客様の快適性の向上を図ります。日本初となるエアバス A380 型機をハワイ路線に投入し新たなハワイ体験を提供します。また、ボーイング 787 型機シリーズの最新モデルであるボーイング 787-10 型機を東南アジア路線に投入することで旺盛なアジア地域の需要とともに日本経由の三国間流動需要を取り込み、収益性の向上を図ります。

こうした路線ネットワークの拡充に加えて、6 年連続で「5 スター」を受賞しているエアラインとして、定時性の向上をはじめとした快適で高品質なサービスを引き続き提供いたします。

国際線、国内線、貨物専用便の路線便数、運航機種等の詳細は以下の通りです。

*これらの計画は関係当局への申請・認可を前提としております。

1. 国際線事業

2019 年 9 月 1 日(日)より成田＝パース線(オーストラリア西部)、またウインターダイヤ期間中には成田＝チェンナイ線(インド南部)を新規開設いたします。これまで日本からの直行便がなかった都市への渡航が格段に便利になるとともに、ますます拡大する訪日のお客様の利便性向上にも寄与していきます。

オーストラリアやインドは、RCEP(東アジア地域包括的経済連携)等の経済連携強化により、ヒト・モノの流動がより一層拡大していくことが期待されています。新規路線開設により両国と日本との交流拡大に貢献するとともにアジア・オセアニア地域における航空ネットワークを強化し、さらなる ANA のプレゼンス向上を図っていきます。

(1) 新規開設

① 成田＝パース線

2019年9月1日(日)より、日本のエアラインとして初めて成田からオーストラリア西部のパースへ新規就航いたします。ANAとしてオセアニアにおいてはシドニーに次ぐ2番目の就航都市となります。

- 鉱物資源・天然資源をはじめとした主力産業によるビジネス需要に加えて、近年ますます増加する訪日需要を取り込んでいきます。
- パースは、歴史ある建物や近代的な建物と緑豊かな自然が見事に調和したオーストラリア西部最大の都市で「世界で最も美しい街」と言われており、豊富な観光資源にも恵まれています。
- また、日本とパースでは季節が逆となるため、年間を通じて双方向の安定したレジャー需要が期待できるマーケットです。



● 既就航地点 ◎ 新規就航地点

航空券の予約・販売は2019年2月7日(木)より開始いたします。

なお、本路線ではプレミアムエコノミーの販売ならびにサービスも実施いたします。

路線	成田＝パース (2019年9月1日(日)より新規開設)
ダイヤ (現地時間)	NH881 成田 11:10 ⇒ パース 20:15 NH882 パース 21:45 ⇒ 成田 08:25 (翌日) (毎日運航)
使用機材	ボーイング 787-8 型機 (184席仕様 : ビジネスクラス 32席/エコノミークラス 152席 (プレミアムエコノミー14席を含む))

*これらの計画は関係当局への申請・認可を前提としています。スケジュールは予定であり都合により変更となる場合もございます。あらかじめご了承ください。

② 成田＝チェンナイ線

2019年ウインターダイヤ期間中に日本からの直行便としては初めて成田からインド南部のチェンナイへ新規就航いたします。ANAとしてインドにおいてはデリー、ムンバイに次ぐ3番目の就航都市となります。

- インドは訪日重点国でもあり、経済成長に伴い訪日需要も年々拡大しています。その成長著しいインドの中でも、これまで日本のエアラインが就航していなかった南インドに日本からの唯一の直行便を開通することで、旺盛な需要を獲得していきます。
- チェンナイは、インド第2の規模を誇る港湾を有し、自動車産業を中心に製造業が集積し「インドのデトロイト」とも称されており、旅客需要に加えて貨物需要も期待できます。
- あわせて、IT産業の拠点として成長著しいベンガルール(バンガロール)やハイデラバードなどを含めた周辺地域からの需要も獲得します。



● 既就航地点 ◎ 新規就航地点

就航日、ダイヤ、使用機材、および航空券の販売開始日につきまして、決まり次第、あらためてお知らせいたします。

(2) 再開・増便

	実施時期	現行	変更後	備考
中部＝上海(浦東)	3月31日～	-	7往復/週	※1
成田＝成都		4往復/週	7往復/週	※2

※1 ウィンター期間運休から再開 ※2 ウィンター期間減便から増便

(3) 機材変更

2019年5月24日(金)の成田発ホノルル行きより、世界最大の旅客機エアバス A380 型機の運航を開始します。エアバス A380 型機での運航は、週3往復より開始し、2号機を投入する7月1日(月)より、週10往復まで拡大いたします。

路線	実施時期	変更前		変更後		備考
		機材	週間便数	機材	週間便数	
成田=ホノルル	5月24日～ 6月30日	B787-9	14往復/週	A380 B787-9	3往復/週 11往復/週	
	7月1日～ 7月31日	A380 B787-9	3往復/週 11往復/週	A380 B787-9	10往復/週 4往復/週	
	8月1日～	A380 B787-9	10往復/週 4往復/週	A380 B777-300ER	10往復/週 4往復/週	

また、ボーイング 787 型機シリーズで最長の胴体を有する最新鋭機、ボーイング 787-10 型機(294 席仕様)を 2019 年 4 月 26 日(金)より成田=シンガポール線に、7 月 1 日(月)より、成田=バンコク線に投入し旺盛なアジア・米国間の三国間流動需要を取り込んでいきます。

路線	実施時期	現行		変更後		備考
		機材	週間便数	機材	週間便数	
成田=シンガポール	4月26日～	B787-9	14往復/週	B787-10 B787-9	14往復/週	※1 ※12
成田=バンコク	7月1日～	B787-8 B787-9	14往復/週	B787-10 B787-9	14往復/週	※2 ※12
成田=ホーチミン	7月1日～ 7月31日	B767-300ER	14往復/週	B767-300ER B787-8	14往復/週	※3 ※12
	8月1日～	B767-300ER B787-8	14往復/週	B787-8	14往復/週	※4
成田=ムンバイ	9月1日～	B787-8	7往復/週	B787-9	7往復/週	
成田=クアラルンプール	3月31日～	B787-8	7往復/週	B787-9	7往復/週	※5 ※12
成田=台北(桃園)	4月9日～	B767-300ER	7往復/週	B787-8	7往復/週	※6 ※12
成田=上海(浦東)	3月31日～	B787-8 B767-300ER	21往復/週	B787-8 B767-300ER	21往復/週	※7
成田=北京	10月1日～	A320NEO	7往復/週	B787-8	7往復/週	※12
成田=青島	8月1日～	B767-300ER	7往復/週	B787-8	7往復/週	※8
成田=武漢	5月1日～	B767-300ER	7往復/週	A320NEO	7往復/週	※12
関西=香港	10月1日～	B737-700	7往復/週	B767-300ER	7往復/週	
関西=大連	7月1日～	B737-700	7往復/週	A320NEO	7往復/週	
関西=上海(浦東)	4月9日～	A320NEO	14往復/週	B767-300ER	14往復/週	
関西=杭州	4月9日～	B737-700	7往復/週	A320NEO	7往復/週	
中部=香港	10月1日～	B737-700	7往復/週	A320NEO	7往復/週	
羽田=バンコク	7月1日～	B787-9 B787-8	21往復/週	B787-9	21往復/週	※9
羽田=香港	6月1日～8 月31日	B787-9 B767-300ER	14往復/週	B777-300ER B767-300ER	14往復/週	※10
羽田=北京	6月1日～8 月31日	B777-300ER B787-8	14往復/週	B787-9 B787-8	14往復/週	※11

※1 NH801/802便にB787-10を投入予定。B787-10投入開始日は機材納入スケジュールによって変更の可能性ががあります。
 ※2 NH805/806便にB787-10を投入予定。B787-10投入開始日は機材納入スケジュールによって変更の可能性ががあります。
 機材変更に伴い、当該便でプレミアムエコノミーサービスの提供を開始いたします。
 サービス開始日が決まり次第、販売開始日とともにANA SKY WEBにてご案内いたします。

- ※3 NH833/834便にB787-8を投入予定。
 - ※4 9月1日～30日はNH831/832便にB767-300ERを投入予定。
 - ※5 機材変更に伴い、プレミアムエコノミーサービスの提供を再開致します。
 - ※6 5月1日～6月30日 B767-300ERを投入予定。
 - ※7 NH919/920便にB787-8を投入予定。ただし、6月1日～30日はB767-300ERを投入予定。
 - ※8 9月1日～30日 B767-300ERを投入予定。
 - ※9 8月1日～9月30日 NH877/878便にB787-8を投入予定。機材変更に伴い、プレミアムエコノミーサービスの提供を開始いたします。サービス開始日が決まり次第、販売開始日とともにANA SKY WEBにてご案内いたします。
 - ※10 NH859/860便にB777-300ERを投入予定。
 - ※11 NH961/962便にB787-9を投入予定。
 - ※12 復路便は翌日からの機材変更。
- *当日の機材・運航状況により変更となる可能性があります。

2. 国内線事業

旺盛な需要を取り込むべく、羽田＝石垣・沖縄・広島線の増便を継続いたします。また、成田＝中部線の増便により、エアバスA380型機を導入する成田＝ホノルル線など成田空港における接続需要を取り込み、国内線・国際線双方の路線ネットワークのさらなる強化を図ります。

引き続き、需要動向や競争環境に応じた路線便数の最適化と投入機種種の柔軟な調整を推進しながら、国内線ネットワークを充実させてまいります。

(1) 増便・再開

路線	実施時期	現行	変更後	備考
羽田＝石垣	3月31日～10月26日	2往復/日	2往復/日	期間増便継続
羽田＝沖縄		12往復/日	12～13往復/日	期間増便継続※1
羽田＝広島		9～10往復/日	10往復/日	期間増便継続
成田＝中部	5月24日～	2往復/日	3往復/日	
伊丹＝石垣	7月13日、15日、 8月2日～27日	-	1往復/日	期間運航
関西＝札幌	3月31日～10月26日	2往復/日	4往復/日	
関西＝宮古	7月13日～9月30日	1往復/日	2往復/日	
中部＝札幌	6月1日～7月12日、 10月1日～26日	4～5往復/日	6往復/日	
中部＝福岡	3月31日～4月26日、 5月7日～31日	5～6往復/日	7往復/日	
福岡＝宮古	4月27日～5月6日、 6月1日～10月26日	-	1往復/日	再開 (期間運航)

※1 7月12日～8月31日は13往復とし、深夜便「ANA ギャラクシーフライト」(6往復/週)を運航します。

3. 貨物便事業

中長期的に需要拡大が見込まれるアジアと北米間において、航空機エンジン・自動車などの大型貨物や、リチウムバッテリー・医薬品などの危険品・特殊品を大量輸送できる大型フレイター・ボーイング777F型機を新たに導入します。拡大する旅客便ネットワークとフレイターの相乗効果により、伸びゆく需要を積極的に獲得していきます。

(1) 新規開設

路線	実施時期	機材※1	運航回数
成田-関空-上海-成田	7月2日～8月25日	B767-300F B777F	6片道/週
成田＝シカゴ	10月27日～	B777F	調整中

※1 成田発火・水・木・金・土曜はB777Fで運航、成田発月曜はB767-300Fで運航します。

(2)機種変更

路線	実施時期	現行		変更後	
		機材	週間便数	機材※1	週間便数
成田=上海	8月26日～	B767-300F	7往復/週	B767-300F B777F	7往復/週

※1 成田発火・水・木・金・土曜は B777F で運航、成田発月曜は B767-300F で運航します。

(3)減便

路線	実施時期	機材	現行	変更後
成田=上海	7月2日～8月25日	B767-300F	7往復/週	1往復/週

(4)運休

物流環境の変化により以下の通り深夜貨物便を運休いたします。

路線	実施時期	現行	変更後
羽田=佐賀	3月31日～	5往復/週	-

以上